## 第36回老人福祉施設研究発表会

# 地域貢献事業として認知症状改善塾の取り組み

平成28年8月25日 特別養護老人ホーム和幸園 星野 八重子 杉田 隆 介

#### 特別養護老人ホーム和幸園

社会福祉法人 北海道ハピニス 所在地 札幌市南区 開 設 昭和50年 入 居 120名 短 期 20名 ユニット型個室 ホームページ: http://hapinisu.com

通所介護 45名 障害者支援施設 100名 生活介護事業所 20名 認知症対応型通所介護 12名 居宅介護支援事業所 訪問介護(高齢・障害) 介護予防センター(札幌市委託事業) 相談支援事業所



## 特別養護老人ホーム和幸園における ケアの変遷

利用者

職 員

平成20年

各階55名の一斉介助 2人、3人、4人部屋 薄いカーテン仕切り オムツ使用率84% 常食率14%

傾眠 無表情

声出し 介護抵抗 歩き回り 夜間不眠

いきいきとした表情

走り回る介護 流れ作業介護 画一的介護 荒い言動

平成21年

介護力向上講習会との出会い 職員のベクトルを合わせるために 困難への挑戦 グループケア開始

「日中オムツゼロ」のスタート

トイレ・介護員が足りない かえって忙しくなる できるわけがない 利用者がかわいそう

平成24年

ユニットケア開始

日中オムツゼロ達成 常食率61% 胃瘻から経口への取り組み

発語の増加 尿意や尿意抑制の復活 意欲の向上 認知症状の軽減・消失 達成感 やりがい 仕事への情熱 考える介護の実践 専門性の向上

平成27年

日中オムツゼロ継続 ターミナルケア開始 常食率90% 歩行率71% 個浴100% 認知症状改善塾開講

食の楽しみの向上 握り寿司パーティー 揚げたて天ぷらバイキング 多彩な外出レク

自立支援の視点 普通の生活の継続の視点 活動性を高める「動機づけ」 の積極的提案

平成28年

認知症状改善塾 第2期 開講中 =活動性の向上= のど自慢大会 散歩クラブ 書道クラブ 麻雀クラブ 手芸クラブ

花いっぱい運動 運動会 スタンプラリー

## 認知症状改善塾

# 目的

- 特別養護老人ホーム和幸園の認知症状改善への 取り組みとそのノウハウを地域に還元する
- ・認知症状を改善することで、本人が尊厳ある 生活を送ることができる
- ・介護者同士の交流と認知症の学びにより、介護者の精神的負担を軽減し、孤立化を予防する

## 認知症状改善塾 概要

- 1.塾の期間は6ヶ月で毎月1回の開催とする(10:30~14:00)
- 2.基本毎回参加する
- 3.ケアの状況把握のため、1週間分のデータ(例:水分量等)を【宿題】として義務付ける
- 4. 当初認められた認知症状の変化や新たな症状の発生などの状況を 参加塾生が報告する
- 5.提出されたデータ・状況をもとに、講師・アドバイザーが助言を 行う
- 6.症状の変化(評価)は、「消失」・「ほとんど改善」・「中等度 改善」・「少し改善」・「変化なし」の5段階で行われる
- 7.通所サービス、ショートステイ等各事業所へ水分摂取増加の協力を依頼する

## 認知症状改善塾

## 内容

- 1.特別養護老人ホーム和幸園の実践事例紹介
- 2.認知症の理解とかかわり方の講義
- 3.基本ケア(水分、食事、排泄、運動)についての講義
- 4.1か月後の取り組みの変化報告と助言
- 5.参加塾生同士のフリートーク

## チームメンバー(特別養護老人ホーム和幸園職員)

- ・大沼施設長(講師)
- ・吉田相談係長(アドバイザー)
- ・川上地域事業部係長(アドバイザー)
- ・星野生活介護係長(アドバイザー)
- ・杉田主任(アドバイザー)

#### 認知症状改善塾フェイスシート

						平成	年	月	日
前					様		男·	女	
年月日	M·T·S	年	月	B	年前	龄(	歳)		
所									
ーパーソン			統相	两	電話				
知症診断名	ロアルツ/	ハイマー		血管性	ロレビー小体	□前頭·側	頭口そ	の他(	
かりつけ医									
DW 42- STE	口高血圧	口脂質	異常症		血管障害 口報	尿病 口心	<b>減病</b>		
既往歷	□向精神	薬の内肌	艮 口道	度の飲	酒 口その他				
日の水分量		ı	mL						
事回数	□3回	D20	_1 <sub>0</sub>	□ <del>{</del>	の他(				
事摂取量	朝 /10	昼	/10	タ	∕10 ₹	の他(			
事形態	口普通食	口やわ	らか食	□^-	スト・ゼリー食	口その他	(		
便状況	□毎日 □ 1/ □不定期								
T 101	服薬 口あり 口なし 薬名( )								
下剤	服薬回数	(		(a)	□朝 □昼 □	夕 口就寝	前		
浣腸	口全くない	\ □ほと	こんどな	い口時	持々ある 口よ	くある			
動(歩行)	口全くない	\ □(₹ &	-んどな	い口時	∮々ある □よ	くある			
					<u> </u>	Olone N			
居家族	1,		続相	兩					
	2.		続相	再					
	3,		続相	丙					
	4.		続格	两					
	5,		続相	丙					
護負担	□5 □4	□3 [	]2 🗆	1(-	-番重いのが5	)			
考				5					

#### 平成27年度北海道ハピニス認知症状改善塾 宿題シート 氏名( )生年月日( 年 月 日)

0		人例	月	日	月	日	月	日	月	日	月		月	日	月	日
時間	水分	他の状況	水分	他の状況	水分	他の状況	水分	他の状況	水分	他の状況	水分	他の状況	水分	他の状況	水分	他の状況
6:00		5				3									15. -	5
7:00	200	〇全														
8:00	100	•											5) (a) (b) (c)	10	; :	
9:00																
10:00	200		6	X.											3	
11:00	9	20m	18	5X	8					0			0		÷	
12:00	200	01/2														
13:00	200		0	EX.	9. 9								0 0		3	
14:00	8					×									8	
15:00	200	Δ														
16:00						8										Š.
17:00		30分	er.													
18:00	200	01/3														
19:00						3									2	
20:00	200															
21:00			9	Š.						0			0 0			
22:00																
23:00	÷				ž.	2			9						į.	
計	1.500ml	デ	0	X.	3	i i				0	/	9	3 9	0	3	T-1

<sup>\*</sup>水分量ml記入、デイサービスでの水分は()、食事・・〇、おやつ・・△、排便・・●、散歩・・散何分orOm、外出・・買い物、会合等

#### 平成27年和幸園認知症状改善塾症状シート

症状の変化 備考 初回の症状 5月 6月 7月 8月 9月 同じこと繰り返し聞く 5 5 5 傾眠 5 5 5 ひとこと言うと必ず言い訳する 化粧の際、手が震えると言い、 鏡を持って家中歩き回る 起床時汗で濡れたもの(靴下、 肌着、ネグリジェ)をあちこちぶ 4 4 らさげる 戸締り確認行為(夕食後ループ 状態) 動悸 5 2 四季通して寒さを訴える 4 誤嚥 3 下剤 5 5 5 5 歯磨き洗顔 4 4

変化:1、消失 2、ほとんど改善 3、中等度改善 4、少し改善 5、変化なし

## 認知症状改善塾 第1期 参加者募集

7月15日(水)

## 和 幸 園 の **)** 目 <sup>か</sup>ら ウ <sup>ロ</sup> コ <sup>の</sup> 認知症ケア

#### 認知症状改善塾塾生募集

こんにちは、石山で昭和 50 年より特別費護老人ホームを運営している 和幸働です。

高齢者のおよそ4人に1人の割合で認知症状がみられると言われている 現在、地域でお暮らしの皆様のなかにも、ご自宅で認知症状のみられる方 の介護を続けている方が多くいらっしゃると思います。

和幸園では、平成21年より取り組んでいる国際医療福祉大学大学院教 接の竹内孝仁先生による『竹内理論』の実践で実に多くの認知症状(興奮、 の管理なる、然られ実材、不能、不穏、無信力、施力、の経験が改進がなる。

(パス停:中央パス常盤橋下車)
・お申込み電話(Q11)591-5210担当:星野・吉田 ・〆切

社会福祉法人 北海道ハピニス

れるといった成果があらわれました。

そこで地域貢献活動の一環として地域でお暮らしの皆様にも和幸園で の取り組みをお伝えし、ご自宅での介護の取り組みに活かせるよう [霧知症状改善整] を開講させていただくことと致しました。

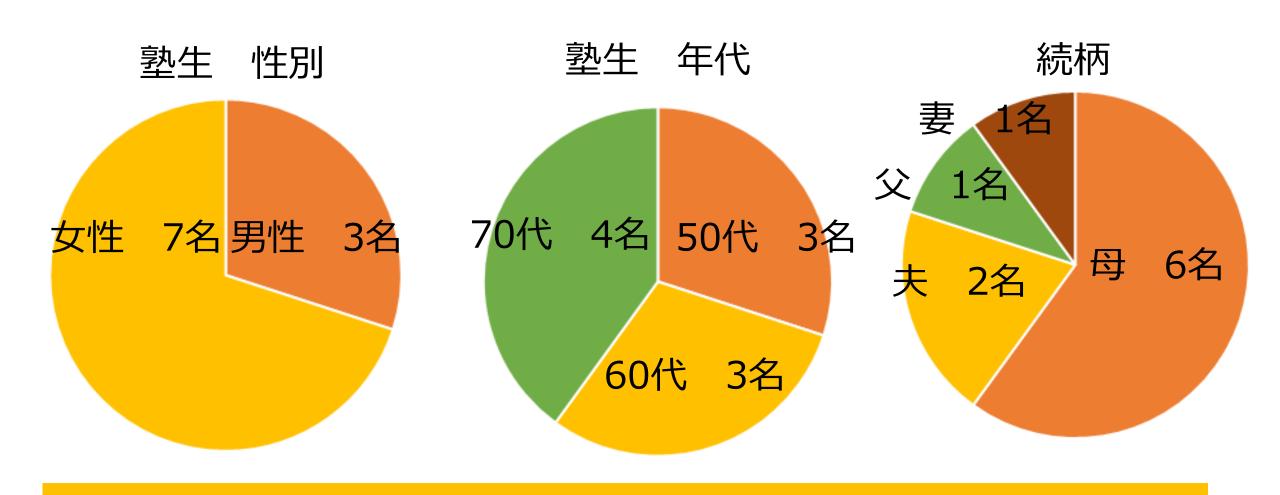
塾生同志が気楽に悩みや知恵を出し合い介護者の「元気」につながる「認知症状改善塾」を目指しています。

参加対象者	認知症の方を介護されている「ご家族」	
	(基本、全6回参加可能な方を対象とします)	
受講期間	6か月(毎月1回の開催を予定しております)	
受講費用	無料	至真駒内 礼候育病院・
講師	和幸團施設長(常務理事)大沼、介護係長星野、 地域事業部係長川上、生活相談係長吉田	芸術の資金地区会館
• 開催日時	(17月24日(金) (410月23日(金) (28月27日(木) (511月27日(金) (39月25日(金) (612月24日(木) 10:30~14:00 (軽食をご用意しております)	東東 東京 東
• 開催場所	和幸園芸術の森 デイサービスセンター「 <b>のえるの森</b> 」 札幌市南区石山東 7 丁目 1-55	▼芸術の森 至支苑遊
<ul><li>交通手段</li></ul>	駐車スペースに限りがございます。無料送迎も致します。	

- 1.施設周辺の2つの 連合町内会回覧板で周知 (約1万世帯、約2万人)
- 2.石山地区の「サロン 駅」でのお知らせ
- 3.石山朝市でのお知らせ

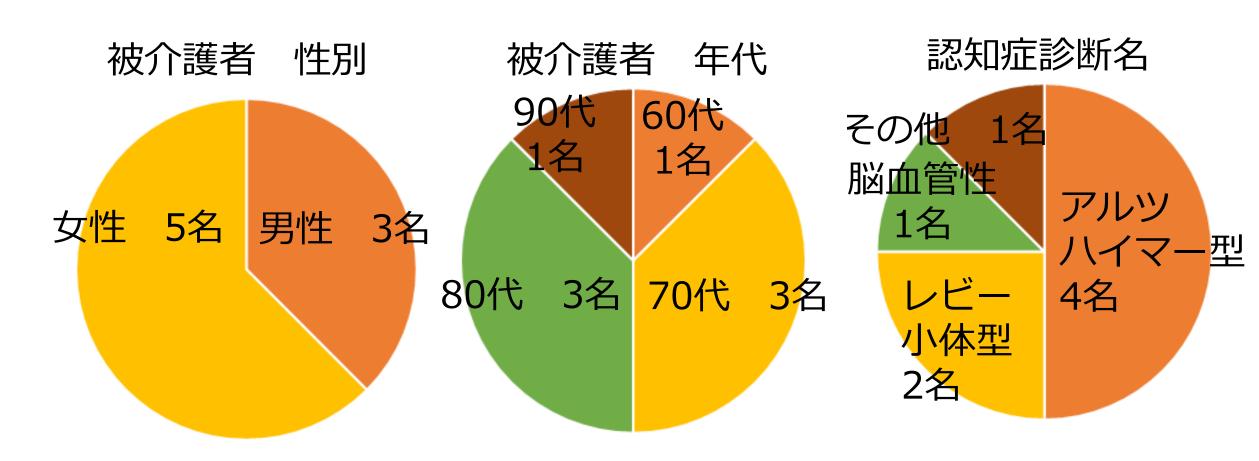
#### 認知症状改善塾 第1期 参加者属性

参加:塾生10名 被介護者8名



#### 認知症状改善塾 第1期 参加者属性

参加:塾生10名 被介護者8名





#### 認知症状改善塾

### 認知症のBPSDの要因

- ①身体的要因 ・基本ケア(水分、食事、排便、運動)
  - ・病気、けが
- ②心理(精神)的要因
- ③環境(社会)的要因

認知症状改善塾では、特に基本ケアへのアプローチを すすめていくことで認知症状を改善、消失につなげていく

## 基本ケア **~水分~**

日 標 水分の効能 脱水の影響

標 1日1,500ml以上の摂取

体温調整・老化防止・毒素排泄・生活習慣病予防

意識障害・口腔機能不活化 唾液分泌量の低下

活動力低下 傾眠 歩行悪化 BPSDの出現 微熱 便秘

便失禁 尿失禁

【方法】

①飲み物の工夫…炭酸 甘酒 トロピカルジュース

ノンアルコールビール等々

②摂り方の工夫…好む飲み物の把握、器の工夫、こまめな働きかけ、

楽しく一緒に等々

③飲めない方には食べる水分…寒天ゼリー

④水分計画をたてる…午前中が勝負→夕方不穏の予防

⑤通所サービス、ショートステイ等の協力を依頼する

⑥諦めない!!

## 基本ケア **~食事~**

目標 1日 1,500キロカロリー 低栄養で注意力、認知力が低下する

- ・物事への関心の消失
- ・突然興奮する



#### 口腔機能の改善

- ・主役は咀嚼運動
- ・咀嚼をすることで口腔機能の廃用症候群を防止
- ・咀嚼回数を高めるためには「常食」

むせの少ない安全な食事の条件

①常食

4姿勢

②水分

⑤義歯

③自力摂取

## 基本ケア **~排便~**

目標 便秘による認知症状の悪化を防ぐ

排便時腸を支配している自律神経が興奮→情緒不安定→BPSD

#### 便秘予防の取り組み

- ①規則的生活
- ②水分摂取(胃大腸反射)
- ③規則的な食生活と常食
- ④食物繊維の摂取
- ⑤身体活動(起立大腸反射)
- ⑥定時排便
- ⑦座位排便

## 基本ケア **〜運動〜**

目標 活動性の向上…閉じこもり、寝たきりの解消

- ・「運動不足の人」は認知能力を失わせる
- ・活動低下は血液の循環を低下し、脳の血液循環が悪くなる
- ・活動低下で食欲不振

#### く方法>

- ①週3回は買い物、通所サービス、通院、散歩、ドライブ等で外出
- ②毎日の歩行(歩行困難の場合は立位、座位訓練)
- ③車いすに頼らない
- ④足底は常に床にしっかりつける(足台の工夫)

## 認知症状改善塾 第1期 クリスマス会の開催



## 目的

- ①閉じこもりがちな被介護者と参加塾生、チームメンバーが 一緒に集い楽しい時間を共有 する
- ②参加塾生が被介護者の残存している社会性や意欲、身体能力等を再発見してほしい









1.宿題はいかがでしたか?

非	常	に	簡	単	0
簡				単	1
普				通	3
大				変	3
非	常	に	大	変	0
無				答	1
合				計	8



 2.水分摂取の実践について

 非常に簡単 0

 簡単 2

 普通 0

 大変 5

 非常に大変 0

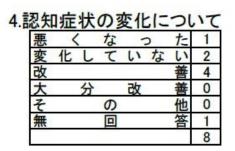
 無回 答 1



3.運動の実践について

非	常	1	簡	単	0
簡				単	0
普				通	3
大				変	2
非	常	12	大	変	2
無	75			答	1
					8







5.介護者の気持ちの変化につい

悪	<	な	2	た	0
少	し悪	<	な・	o to	0
変	化		な	٦	0
楽	1=	な	2	た	7
非	常に	楽に	な	った	0
無	es eus-es-		- 30-	答	1
					8

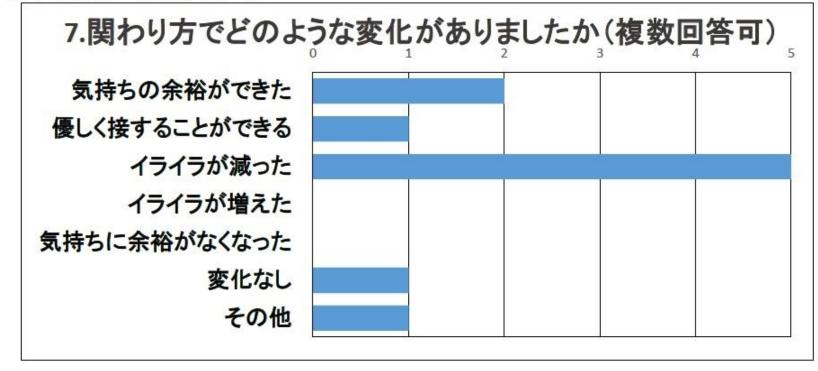


6.関わり方の変化について 全く変化なしの あまり変わらないの 変わった6 非常に変わった1 その他の 無回答1



7.関わり方でどのような変化がありましたか(複数回答可)

気持	ちの余	裕がで	できた	2
優しく	接する	ことが	できる	1
イラ	イラ	が減	った	5
イラ	イラ	が増	えた	0
気持7	ちに余	俗がな	くなっ	0
変	化	な	L	1
そ	0	)	他	1



8.塾全体を見ていかがでしたか?

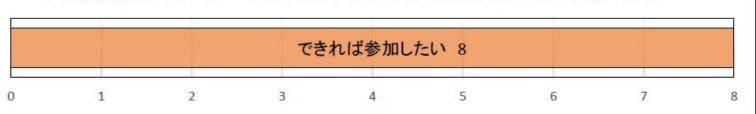
全く成果がなかった	0
あまり成果がなかった	0
どちらともいえない	0
成果があった	6
非常に成果があった	1
無 回 答	1
	8



9.今後も開催することがあったら参加を希望されますか?

ぜひ参加したい	0
できれば参加したい	8
参加しない	0
3	8





## 認知症状改善塾 第2期 開講中

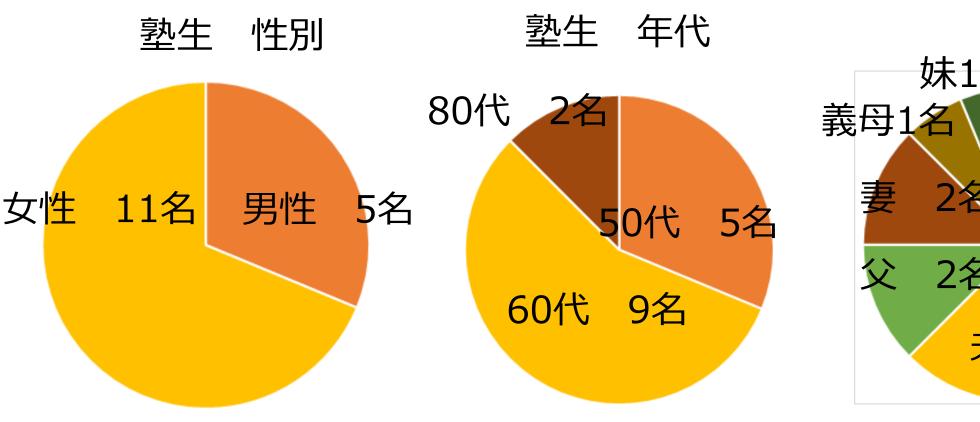
日程 平成28年4月~9月 10:00~13:30

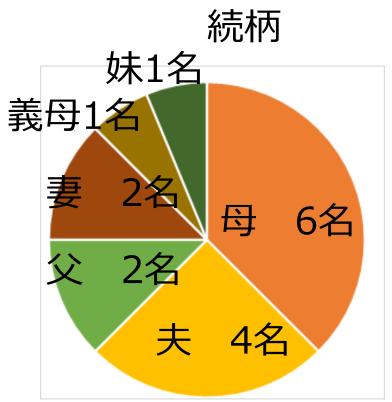
1期と同じく月1回開催

- ・開催日から2週間後ぐらいに、チームメンバーから参加塾生へ 電話による聞き取りと助言を行う
- ・開催前にはチームメンバーによる「検討会議」実施

## 認知症状改善塾 第2期 参加者属性

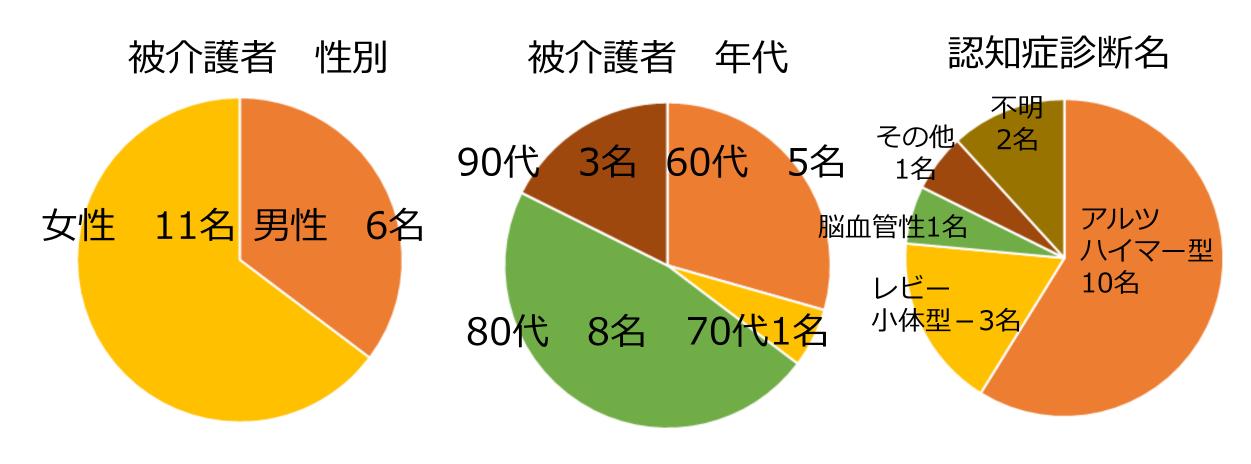
参加:塾生16名 被介護者17名





## 認知症状改善塾 第2期 参加者属性

参加:塾生16名 被介護者17名



## 認知症状改善塾参加者事例S様

```
年 齢
    67歳
件 別
    男性
介護度
    要介護5
疾患アルツハイマー型認知症
服 薬 クエチアピン錠「アメル」37.5mg
                      朝のみ
    マグミット錠 330mg 4回/日
    約1000?ml(日によってムラがあり)
排便はぼ毎日排便あり
食 事 常食 3食全量摂取
介護保険サービス デイサービス週6回
```

## 認知症状改善塾参加者事例S様

<変化> 水分 1,000?ml→1,520ml 下剤 4回/日 → 2回/日

消失した認知症状

①大声での独語

②暴言

③突然怒り出す

④物を投げる

⑤突然家を出る

⑥ドアを荒々しく閉める

⑦収集癖

⑧険しい表情

消失!

消失!

消失!

消失!

消失!

消失!

消失!

消失!

平成28年第2期和幸園認知症改善整症状シート		氏名	(			
初回の症状	備考	5月	症	状の変	化	9,5
著替a 拒否	9000	T	4	3	OH	9)
·独自言(小声)		5	¥	4		
(大声)		-	3	2		
泉言		t	8	1		
实然想以出了		7	w	2		
・ウロウロとする		5	3	3		
· Stan evity		5	3	3		
· 枪 E 投 Y 3		5	3	1		
・ドアを者高く関める		5	3	1		
・ホケルペンな、争に持るおく		5	3	1		
八路自挂西		5	X	3		
· 度UU表情(Brisho2)		5	3	1		
・ めそめをする.		5	4	3		
· 実は、家をでる。		5	3	2		
· See Chaittin		5	3	2		
·在し復為のでする。		5	3	9		
· 15 31: 94 243 6 7 Elit 17 Partira Manda		5	5	S		_
・ディからりまってまれな、湯かしむ (タオ)		5	7	4		_
, 151ラする (2方)		2	4	4		
タターテレビとはし笑うるが始えん				0		
ターテレビリン笑う事の名はん				0		
						_
						_
						4
			- 1			
	1					
						_
変化:1、消失 2、ほとんど改善 3、中等度改善	# 4 /b	1 沙羊	5 #	4477		

## 認知症状改善塾参加者事例S様

変化

- ①テレビを見て笑うことが増えた
- ②デイサービス送迎時、笑顔であいさつする
- ③デイサービス送迎職員に「ありがとう」と発言する

## 認知症状改善塾 改善・消失した症状

消失	改善
①家にいるのに、家に帰ると言う ②水分の拒否 ③言葉を発しない ④1日中ぼんやりしている ⑤無表情 ⑥食事の拒否 ⑦「早く服を着て学校に行かねば」と 言う ⑧夜間、煙・火・虫が見えると言う ⑨手の振戦 ⑩動悸 ①寒さの訴え ②誤嚥 ③被害妄想	<ul> <li>①険しい表情</li> <li>②排尿の拒否</li> <li>③何度も同じこと言う</li> <li>④表情が固く笑わない</li> <li>⑤食べ物の執着がらい</li> <li>⑥着替えの拒否</li> <li>⑦ウロする</li> <li>⑧部屋に閉じこもる</li> <li>⑨入浴、服薬、食事の拒否</li> <li>⑩めそする</li> <li>⑪放尿</li> <li>⑫発語がない</li> <li>⑬夕方くりしか歩けない</li> <li>⑮靴をうまくはけない</li> <li>⑯靴をうまくはけない</li> <li>⑯表情があまりない</li> <li>⑰デイサービスへの拒否</li> <li>⑱座位姿勢保持が困難</li> </ul>

## 考察

- 1.認知症状を改善・消失することで「尊厳」と「希望」をもって、在宅生活を継続することができる
- 2.参加塾生同士のよこのつながりが生まれ、孤立の予防につながっている
- 3.参加塾生からのピアカウンセリング効果は大きく、行き詰った 介護者の意欲の創出につながっている
- 4.認知症の方を支える家族の本音を聞くことで、心理的・身体的症状を含む慢性的な悲嘆反応を知り、「職員」の認知症ケアの理解が深まった
- 5.認知症状の改善・消失には、医療にも増して介護の専門性が求められる
- 6.特別養護老人ホーム和幸園の取り組みが認知症状改善塾の開講に つながり、地域貢献事業にも繋げることができた

参考文献 小平めぐみ(2013) 『介護の生理学』 竹内孝仁監修 秀和システム